



**この人**

福田さんは早島町の出身。福島県立大学を卒業と同時に社会福祉士の資格を取得し、2021年5月、当院に就職されました。学生時代の約3年間、障害児のデイサービス事業に関わったそうです。そこでは、「生まなながらにしてさまざまな

## 水島協同病院は差額ベッド料はいただいておりません

### 個別性をしつかり 抱えた支援を

期待の新人

医療ソーシャルワーカー 福田 和也さん

### 患者さんの笑顔や表情に 職員も活力もらう

2階西病棟クリスマス会 盛況



▲サンタになったのは、平良師長と足立師長の2人

2階西病棟では季節に合わせた「会」を行っています。12月22日のクリスマス会では、週1回水曜日に離床タイムに参加されている患者さんをはじめ、普段はこうした会にはあまり参加されていない患者さんまで「クリスマス会」と声をかけると気軽に連れ立って参加してくれました。

普段の病室ではなかなか見ることができない表情や笑顔を見られて、私たちも思わず活力をいただきました。

これからも出来るだけ患者さん方に季節の移り変わりを感じて頂けるようにスタッフと協力して続けていきたいと思います。(2階西病棟看護師 博田麻都花)

談活動にも大いに活かされる  
ことでしょう。就職後、7カ  
月が経過しての感想は、「毎日  
出会う患者さんは、それぞれ

つと学び、研鑽を積んでいき  
たい」と語ります。  
普段は落ち着いた印象の福  
田さん。少々照れ屋さんで頬

を赤らめている姿を見て、周  
囲は癒やされています。小中  
高校時代はバスケットボール  
を続けていたスポーツマンで  
もあります。バスケットボ  
ールファンの方がいましたら、  
ぜひ一度声をかけてみてくだ  
さい。気さくに語ってくれる  
と思います。最近のお休みは、  
過ぎごすことが多い、早寝早起  
きして翌日の仕事に備えてい  
るそうです。多彩な才能を持  
つ福田さん。今後の成長と活  
躍が大いに期待されます。

(医療福祉相談室 村上丈司)

## 冬場のもう一つの感染症

# ノロウィルス

対策の基本は手洗いの徹底



ノロウイルスは、10個程度の少量のウイルスが、ヒトの体に口から侵入し、小腸で爆発的にウイルスを増殖させる特徴があり、嘔吐下痢症の集団感染をおこしやすくなります。そのため、流行が少し落ちている2021年も、基本的な感染対策「手洗いの徹底」が欠かせません。①食事を摂取する前②排泄後③吐物や汚物の処理後に忘れず流水と石鹼で念入りに手を洗いましょう。

当院でも、冬場の感染症に対する学習を感染管理の研修で実施しています。学習方法としては、吐物に見立てる蛍光塗料入りのヨーグルトを使って、吐物の処理や防護具の正しい着脱ができる

選択肢が制限されている児童と触れ合うなかで、選択の幅を広げる環境作りの大切さを学んだそうです。この経験は、今後、当院での医療福祉相

対応で医療福祉制度活用など、紹介する事も多く、自らがも

目指すゴールが違うため、個別性を大事にした支援の必要性を強く感じています。相談

まずはいつもの手洗い徹

（感染防止対策室 池上鮎美）

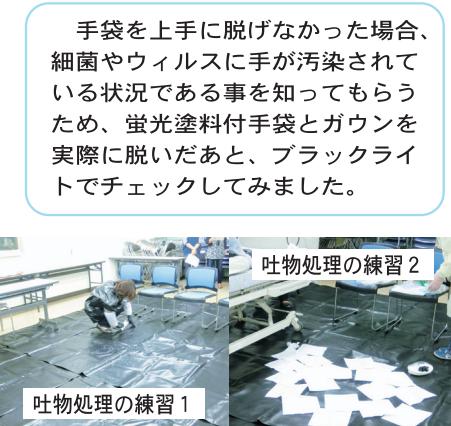
私たち外来看護師は外来末期がん患者さんの意思決定を支援しています。そこで、やりばのない怒りを医療者にぶつけてしまう患者さんに出会いました。患者さんは胃がん術後の定期受診を会いました。患者さんは命宣告を受けた本人は「そんなに短い命だと思わない」と命の期限を決められたことを拒否し、苛立ちや怒りといった感

情をみせることが頻繁になりました。私たちは患者さんのペースに合わせた対応と、家族支援を中心に看護を行い、患者さん自ら発言するの待ち、しっかりと傾聴しました。患者さんは意思を汲み取りながら見守つておこなったことで、私たちとの間に徐々に信頼関係ができてきました。

また家族支援としてまわりの家族の不安や訴えをお聞きし、一緒に最善の案を考えることで家族の不安も軽減でき、患者さんと家族の関係も良くなっていますが、多職種で協働するには難しいこともあります。しかし、粘り強く対応し、今後も患者さん、家族の思いに寄り添つていきたいです。



▲左は防護具装着時、右は防護具を脱いだ後



吐物処理の練習1



吐物処理の練習2

## 患者さんの感情もじっと聴く ー前期院内学術運動交流集会での発表からー

外来看護2科 森下久美子



るかを確認しています。

ノロウイルスは、コロナ禍で定着してきた手洗い「アルコール手指衛生」が効きません。そ

して、2枚貝など（代表的な食べ物：かき）に潜伏している可

能性があり、調理をする際には、必ず中心温度85°C～90°Cで90秒以上の加熱が必

要です。

冬場は、いろんなウイルスが活発に活動しやすくなる時期なので、基本的な感

染対策の意識を緩めず、

底！で、風邪をひかない

冬をお過ごしください。

（感染防止対策室 池上鮎美）

私たち外来看護師は外来末期がん患者さんの意思決定を支援しています。そこで、やりばのない怒りを医療者にぶつけてしまう患者さんに出会いました。患者さんは胃がん術後の定期受診を会いました。患者さんは命宣告を受けた本人は「そんなに短い命だと思わない」と命の期限を決められたことを拒否し、苛立ちや怒りといった感

情をみせることが頻繁になりました。私たちは患者さんのペースに合わせた対応と、家族支援を中心に看護を行い、患者さん自ら発言するの待ち、しっかりと傾聴しました。患者さんは意思を汲み取りながら見守つておこなったことで、私たちとの間に徐々に信頼関係ができてきました。

また家族支援としてまわりの家族の不安や訴えをお聞きし、一緒に最善の案を考えることで家族の不安も軽減でき、患者さんと家族の関係も良くなっていますが、多職種で協働するには難しいこともあります。しかし、粘り強く対応し、今後も患者さん、家族の思いに寄り添つていきたいです。